

令和元年度執行事務事業

施策名	基本事業	番号	事務事業名
歴史・文化資源の 継承と保存	歴史・文化資源の理解の促進と地域 づくりの推進	1	文化財要覧等作成事業
		2	田中正造旧宅一般公開支援事業
		3	田中正造関係資料購入事業
		4	郷土博物館維持管理事業
		5	美術館講座等開催事業
		6	日本博物館協会参画事業
		7	栃木県博物館協会参画事業
		8	田中正造未公開書簡編纂事業
		9	葛生伝承館講座等開設事業
		10	葛生伝承館企画展等開設事業
		11	葛生伝承館運営事業
		12	葛生伝承館維持管理事業
		13	葛生化石館講座等開設事業
		14	葛生化石館企画展等開設事業
		15	葛生化石館運営事業
		16	葛生化石館維持管理事業
		17	郷土博物館講座等開設事業
		18	郷土博物館協議会運営事業
		19	郷土博物館企画展等開設事業
		20	郷土博物館学校利用推進事業
		21	郷土博物館運営事業
		22	郷土資料保存三好館運営事業
		23	郷土資料保存三好館維持管理事業

事務事業名		文化財要覧等作成事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	文化財保護係	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14911	一般	10	4	5	文化財要覧等作成事業					
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H27年度～R1年度			根拠法令等	文化財保護法 佐野市文化財保護条例				
							事業区分		市単独事業・国県補助事業		
									市単独事業		
								任意的事業・義務的事業			
								実施方法			
								事業分類			
								リーディングプロジェクト			
								市長市政公約			
								その他市民に対する事業			
								該当			
								該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)							
<p>・従来の旧佐野市(H3年発行)、旧田沼町(H17年発行)、旧葛生町(H5年)発行のものをそのまま使用を続けている。しかし、発行後最長で20年以上が経過しており、その間の新規指定や指定解除などの情報が反映されておらず、すでに対外的には活用できないものとなっていてしまっている。このため市内の指定文化財を総覧する「文化財要覧」を編集・刊行する。</p> <p>・「文化財要覧」の基礎となる文化財指定台帳を整理し、また指定文化財のデータベース化を図る。</p>			<p>昨年度までにまとめていた原稿を修正・編集し、令和元年9月に文化財要覧を刊行した。刊行後は、関係各所への配布をした他、一般に向けた頒布の準備を整え、頒布を開始した。</p>							
			活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)	
			文化財指定台帳及び旧要覧の電子データ化が完了した件数	件	254	254	259	-	-	
			「文化財要覧」の原稿執筆が完了した文化財数	件	254	254	259	-	-	
			文化財指定台帳の整理及びデータベース化が完了した文化財数	件	254	254	259	-	-	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
<p>①市民 ②市外からの観光客 ③市内の指定文化財、登録文化財</p>			対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)	
			人口	人	120,018	119,348	118,450	-	-	
			観光客入り込み数	人	8,882,845	8,741,076	8,574,819	-	-	
			市内の指定文化財、登録文化財件数	件	260	257	262	-	-	
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
<p>①「文化財要覧」編集・刊行を通じて、佐野市の歴史や伝統文化についてPRを行う。</p> <p>②『佐野市の文化財保護』や市HPを活用して、見直された文化財台帳に掲載された文化財の解説を公表する。</p> <p>③「文化財要覧」販売・周知により、市民や市外からの観光客に市内を周遊してもらう。</p>			成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
			佐野市の歴史上の人物や文化財、郷土伝統などを知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9	-	-	
			「佐野市の文化財保護」や市HPにおいて、見直された文化財台帳に掲載された解説を公表した文化財	件	20	20	259	-	-	
			「文化財要覧」作成	部	-	-	1000	-	-	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
<p>①佐野の歴史、伝統文化、文化財の保存保護に関する理解の促進</p> <p>②文化財の適切な保存と活用</p>			上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
			企画展開催・記念講演会・図録、及び要覧等PR図書発行件数	件	-	19	15	-	-	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)		
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円				138				
	一般財源	千円				1,484				
	事業費計(A)	千円		0	0	1,622	0	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
							通信運搬費	89		
							業務委託料	1,533		
正規職員従事人数	人				5					
のべ業務時間	時間				500					
人件費計(B)	千円		0	0	1,908	0	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円		0	0	3,530	0	0			

B表(事後評価シート)

事務事業名	文化財要覧等作成事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	文化財保護係
-------	------------	-----	-------	-----	------	-----	--------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	合併後に指定された国指定重要文化財「葉蟲譜」や県指定有形民俗文化財「佐野天明鑄物生産用具」など、貴重な文化財が未掲載のままとなっている。また、国指定史跡「唐沢山城跡」(平成26年3月18日指定)や、市指定史跡「田中正造終焉の家」(平成25年9月4日指定)は、いずれも、佐野市を代表する文化財であり、これらを総覧できる「文化財要覧」の刊行は不可欠であることから、本事業を企画し、27年度から事務事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	合併により市指定文化財だけでも約180件となり、また、所有者の高齢化や交代などもあり、保存管理に関し適切な対策が求められている。また、近年、市外へ指定文化財が流出する状況があり、文化財を取り巻く環境が大きく変化している。また、国史跡として全国屈指(関東以北では最大級)の規模である唐沢山城跡指定は、ニュースとして全国へ発信された。今後これを目的とする観光客が増加することが予想され、「観光立市」推進にも直接的に結びつく。さらに市民にとっても、郷土の歴史や文化財を見直すきっかけとなると考えられる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	文化財要覧等作成の一環として、指定文化財のデータベース化作業が必要となるが、この点に関して市議会において要望が出されている。また、市文化財保護審議会からも、要覧作成の必要性に関する意見が出されている。その他、市民や市外からの観光客から多数のニーズがあるだけでなく、市職員からも行政視察等の資料として活用したい旨、たびたび照会がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	新規事業により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 「文化財要覧」によって、市民などに佐野の歴史、伝統文化、文化財の保存保護に関する理解を深めてもらうことは、上位の施策目的である「文化財の適切な継承と保存」に合致する。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 佐野市文化財保護条例には、文化財の保存及び活用が適切に行われるために必要な措置を講じなければならない旨が、市の責務として掲げられている。その手段として、「文化財要覧」は、地域の歴史・文化の理解促進に直接つながる有効な手段であり、作成事業を実施すべきである。ただし、個人所有の文化財も多数指定されており、個人の財産に関する情報を取り扱うことから、民間への委託には適さない事業である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 唐沢山城跡に関する講演会を例に挙げると、市民だけではなく市外・県外の方々も多く参加され、その数は年々増加しており、現在定員300名を大きく超えるほどの集客がある(平成28年度の講演会では、400名を超えた)。この例だけではなく、歴史・文化関連の催しは各地で盛んに行われており、この分野のニーズが非常に高いことを示している。「文化財要覧」の作成を行うことは、このようなニーズに応えるだけではなく、佐野市のPRにもつながる。このような観点から、対象・意図ともに妥当と考える。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 令和元年9月に文化財要覧が刊行されたため、本事業は今年度で終了となる。「文化財要覧」刊行後は、一般の方への頒布を進めるため、広く周知を行う必要がある。「文化財要覧」を周知することにより、市民や市外からの観光客などに実際に現地を訪れてもらうきっかけをつくることことができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	事業費・人件費共に削減の余地がある	理由・改善案 令和元年度に文化財要覧を刊行し、事業が完了したことにより、予算措置は今年度で終了となる。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 「文化財要覧」は、市内外の学校、図書館、関係機関等への無料配布分を除き、その他については受益者に対し1冊あたり2,000円で頒布を開始している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 令和元年9月に「文化財要覧」が刊行されたことにより、本事業は今年度で終了となる。ただし、市民などから要望が出された場合には、将来的に増刷するなどの対応が必要となる可能性がある。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業終了 *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 令和元年9月に文化財要覧が刊行されたため、本事業は今年度で終了となる。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 コスト 削減 維持 増加 向上 成果 維持 × 低下 × ×	

事務事業名		田中正造旧宅一般公開支援事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	文化財保護係	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14908	一般	10	4	5	田中正造旧宅一般公開支援事業					
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H5年度～ 年度		根拠法令等	文化財保護法、栃木県文化財保護条例、佐野市文化財保護条例、佐野市田中正造旧宅管理運営補助金交付要綱、佐野市田中正造旧宅入場料補助金交付要綱		実施方法		直営
							事業分類		支援事業		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)								
佐野市小中町にある田中正造旧宅(栃木県指定史跡)の適切な保存と一般公開を図り、佐野市が誇る歴史的人物である田中正造翁の偉業を市内外に広く伝えるため、旧宅の維持管理及び一般公開を行っている(一財)小中農教倶楽部に対して補助金を交付する他、説明ボランティア団体育成のための支援を行う。			・田中正造旧宅管理及び一般公開((一財)小中農教倶楽部の活動)の支援 ・(一財)小中農教倶楽部への管理運営費補助金及び入場料補助金の交付事務(令和2年2月交付)								
活動指標			単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)			
田中正造旧宅開館日数			日	210	212	211	210	210			
説明ボランティアの活動人数			人	309	285	232	320	320			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
①(一財)小中農教倶楽部 ②田中正造旧宅見学者 ③旧宅説明ボランティア団体			対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)		
田中正造旧宅年間入場者数			人	2,320	1,807	1,347	2,150	2,200			
無料枠入場者数			人	1,446	978	741	1,075	1,100			
説明ボランティア人数			人	26	24	22	30	30			
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
田中正造翁の偉業を認識してもらい、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えるため、田中正造旧宅一般公開事業の円滑な運営と財政の健全化、及び説明ボランティア団体の養成を支援する。			成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)		
年間入場者数/前年度入場者数			%	116.7	77.9	74.5	102.4	102.3			
年間入場者数/H9～17平均入場者数(2665.4人)			%	87.0	67.8	50.5	80.7	82.5			
説明ボランティア団体視察研修回数			回	1	1	-	1	1			
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)											
地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育んでもらう。			上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)		
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合			%	91.8	93.1	91.9	94.0	94.0			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)				
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		1,269	1,295	1,163	1,340	1,340				
	事業費計(A)	千円		1,269	1,295	1,163	1,340	1,340				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費		
			負担金、補助金及び交付金	1,264	負担金、補助金及び交付金	1,295	負担金、補助金及び交付金	1,163	負担金、補助金及び交付金	1,340	負担金、補助金及び交付金	1,340
			消耗品	5								
人件	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2					
費	のべ業務時間	時間	400	400	400	400	400					
	人件費計(B)	千円	1,526	1,528	1,526	1,526	1,526					
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,795	2,823	2,689	2,866	2,866					

B表(事後評価シート)

事務事業名	田中正造旧宅一般公開支援事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	文化財保護係
-------	----------------	-----	-------	-----	------	-----	--------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成5年に県指定史跡「田中正造旧宅」の保存整備事業が完了し、田中正造生家保存整備調査研究委員会の「田中正造旧宅保存整備に関する最終答申書」などに基づき、同年11月から一般公開事業が始まった。公開事業を行うに際しては、所有者である(一財)小中農教倶楽部の管理運営費の負担が多いため、佐野市が補助金を支出し支援することになった。また、見学者の理解の促進を図るため、説明ボランティアを養成し、旧宅公開に際する人的支援策も講じて行くこととした。その後、平成17年度からは、入場料無料化(高校生・障がい者・高齢者)の拡大部分に対してその拡大による減収の2分の1を助成している。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成5年から内規に基づき補助金を交付していたが、平成17年に「田中正造旧宅入場料交付金交付要綱」「田中正造旧宅管理運営費補助金交付要綱」を定め、それらに基づき交付している。(一財)小中農教倶楽部は収入が補助金と入場料しかなく、不足分を財団の流動資産を取り崩すことによって補い、公開事業を行っている。そのため、今後佐野市として何らかの対応が必要であり、要綱の改正を含めた対応が必要になると考える。また、(一財)小中農教倶楽部は、平成26年4月1日付で財団法人から一般財団法人へ移行した。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	田中正造旧宅の運営に関しては、入場料の収入だけではまかなえない部分が大いため、旧宅の公開事業で田中正造の業績を後世に伝えてゆくためには、今後も継続的な支援として補助が必要であるとの意見を(一財)小中農教倶楽部よりうかがっている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	田中正造旧宅を広く市内外へ向けて発信するために、佐野市のホームページなど広報手段の活用を検討した。また、補助金の交付方法について見直し、適切な執行ができるよう努めた。
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 地域の歴史・文化の理解の推進に結びつくと考え、小中農教倶楽部による田中正造旧宅の公開事業への補助金支出による財政的支援は、事業の財政面での健全な運営に寄与しており、また、ボランティア養成講座への支援を通じて、新規ボランティアの養成や資質向上も達成されている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 「田中正造旧宅」の保存と一般公開は、文化財の保存・活用という点で市が努めるべきこととして法令で謳われている。また、一方では、佐野市を代表する歴史的人物である田中正造の偉業を知らしめ、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えることは、本来市として取り組むべき事業である。そのため(一財)小中農教倶楽部に対して補助を行うことは、妥当であるとする。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 田中正造の偉業を知らしめ、誇れる郷土の歴史を正しく理解し後世に伝えるために、旧宅一般公開事業は必要であり、その支援は妥当である。また、見学者が正造翁やその旧宅についての理解を深めるため、説明ボランティアとして活動している団体の育成について、支援を行うことは、市民との協働を促進する上でも妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 田中正造旧宅に関して、市民の関心等の意識を高め、また、事業をより健全に運営できるようつなげていく上では、市のHPや広報誌を活用することによって、低コストで効果的な宣伝を実施できる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業がない
	*類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 事業費については、入場者数に大きな変化がなく、多くの人たちに見学してもらうためには、入場料の値上げも難しい。入場料の大幅な増は見込めないため、削減の余地はない。 人件費については、正造旧宅の一般公開を円滑に円滑にするための補助金の交付事務が主であるため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 受益者は田中正造旧宅の入場者と(一財)小中農教倶楽部である。 受益者負担について、入場料を徴収しているが、運営が厳しいため、やむを得ないものと考えられる。本来、文化財の維持管理は所有者が行うべきものであり、田中正造の業績を伝え、後世に残すという目的のため一般公開を実施し、これに支援を行っているものであるから、現状の受益者負担は適正であるとする。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) (一財)小中農教倶楽部の財政状況が、市からの補助金の交付無しで田中正造旧宅を円滑に運営出来る状態になった場合、この事業は終了と考えられる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) : 現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) (一財)小中農教倶楽部が田中正造旧宅を円滑に運営出来るように補助金の交付事務など積極的に取り組んでいく。その一方で入場者数増加や歳出削減に繋がるような運営上の工夫や改善を(一財)小中農教倶楽部に提案していく。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	(一財)小中農教倶楽部に対し、運営上の工夫や改善を提案するうえで、歳出削減には限度があることから、入場者増加に結び付くような提案をする必要がある。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		田中正造関係資料購入事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	14864	一般	10	4	4	市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
	田中正造関係資料購入事業					任意的事業・義務的事業		任意的事業		
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H25年度～H34年度		根拠法令 条例等	実施方法		直営		
						事業分類		その他内部事務事業		
					リーディングプロジェクト		該当なし			
					市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
田中正造翁没後百年顕彰事業の一環として、田中正造の行動と思想を後世に伝えるため、没後百年となる平成25年度から当面の間(10年間)、葉書、書幅等正造資料を継続的に購入し、正造翁の偉業を顕彰する。	○田中正造関係書簡等の購入						
	活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	購入資料数	点	0	2	2		
	寄贈資料数	点	0	2	85		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

正造関係博物館収蔵資料	対象指標	単位	29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	正造関係博物館収蔵資料	点	14,197	14,202	14,289		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

正造ゆかりの博物館として、正造関係資料を継続的に購入し、博物館収蔵資料数の拡充を図る。	成果指標	単位	29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	正造関係収蔵資料数/収蔵資料数	%	37.4	37.3	37.0		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	0		108		132					
	事業費計(A)	千円	0		108		132		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			庁用器具費	0	庁用器具費	108	庁用器具費	132				
	人件費	正規職員従事人数	人	2		2		2				
のべ業務時間		時間	30		30		30					
人件費計(B)		千円	114		115		114		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	114		223		246		0		0	

事務事業名	田中正造関係資料購入事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館は、昭和58年11月に開館し、正造関係資料については約14,000点程収蔵しているが、近年、財政的な理由から正造関係資料を購入できない状況となっていた。そのため、田中正造翁没後百年となる平成25年から顕彰事業の一環として、継続的に購入するように、平成24年2月に田中正造翁没後百年顕彰事業庁内推進委員会において承認された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	東日本大震災等による原発問題や環境問題への関心が高まっているとともに、没後百年を契機として、正造翁の偉業を顕彰する重要性が深まってきている。美術品や正造関係資料については、景気の低迷に伴い、以前と比べて比較的安価な値段で市場に出回っているため、購入しやすい状況にある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	一般市民等から、正造資料を博物館で購入して欲しいとの話が時々ある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	郷土の偉人である田中正造の資料を購入することができれば、地域の歴史に触れることが増え、市内外の人々に佐野市の歴史を知ってもらおうとともに、市民の郷土への誇りと愛着心を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	正造翁の偉業を永く後世に伝えるために、正造ゆかりの博物館として、正造関係資料を積極的に購入することは、博物館の責務であり、NPOや市民団体に委ねることはできない。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	郷土博物館は、田中正造ゆかりの博物館として従来から正造の顕彰を図っており、没後百年を契機として田中正造の貴重な資料を購入し、後世に伝え、地域に誇りと愛着を持つ人々を育成することは、博物館の重要な役割である。対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	日頃から情報収集に努め、田中正造関係資料が市場に出まわっていないかを確認し、資料購入を迅速に行うことで、より多くの資料を収集することができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	必要最低限の資料購入費のためのため、事業費を削減することはできない。人件費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	郷土博物館で購入する資料であるため、受益者負担を求めることはできない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 顕彰事業の目的である「正造翁の偉業を広め、永く後世に伝える」ためには、継続的に資料収集を行うことが必要であるため、10年という一定期間の購入計画を立てている。正造関係の資料は、市場に出回っているためすぐに事業終了となることは考えられない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		郷土博物館維持管理事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14810	一般	10	4	4	郷土博物館維持管理事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例				
					事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		直営		
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
郷土博物館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に博物館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。 ・施設・設備の維持管理に係る消耗品等購入 ・施設の修繕 ・借用資料及び建物の損害保険への加入 ・収蔵庫及び展示室のくん蒸業務の実施 ・空調機器、給排水設備等の保守点検、館内清掃業務、施設警備業務の委託等 ・老朽化等による施設の工事		・施設の維持管理に係る照明器具等の消耗品の購入 ・常設展借用資料に対する賠償責任保険、火災保険等に加え ・収蔵庫のくん蒸業務委託。(7/6～7/9) ・空調機器、給排水設備、消防設備等の保守点検及び館内清掃・警備業務の委託(年間) ・高電圧気中閉閉器(PASS)修繕工事 ・南側シャッター取替工事 ・雨漏り修繕 ・自転車置場屋根修繕 ・手すり取付修繕						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		業務等委託件数	件	10	11	11		
		修繕件数	件	8	6	5		
		収集資料数	点	37,930	38,067	38,984		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

施設・設備 市民及び市外からの入館者 収蔵資料	対象指標	単位	29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	敷地面積	m ²	7,470	7,470	7,470		
	入館者数	人	22,362	20,387	16,314		
	収蔵資料数	点	37,930	38,067	38,984		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

① 建物・機械設備等を維持・管理し、展示室や収蔵施設の最適環境を保つ。 ② 利用者が、安全で快適に施設を利用できる環境を保つ。	成果指標	単位	29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	適切に収蔵されている資料数/収蔵資料数	%	100	100	100		
	入館者/市民人口	%	18.6	17.1	13.9		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	338	262	127			
	一般財源	千円	14,215	9,667	7,830			
	事業費計(A)	千円	14,553	9,929	7,957	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	3,998	需用費	2,454	需用費	2,444
			役務費	206	役務費	190	役務費	148
			委託料	3,988	委託料	3,581	委託料	3,735
			使用料及び賃借料	93	使用料及び賃借料	102	使用料及び賃借料	103
工事請負費			6,268	工事請負費	3,564	工事請負費	1,527	
				公課費	38			
人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4			
	のべ業務時間	時間	1,440	1,440	1,440			
	人件費計(B)	千円	5,495	5,502	5,494	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	20,048	15,431	13,451	0	0	

事務事業名	郷土博物館維持管理事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年11月の郷土博物館の開館に伴い、利用者が安全で快適に施設を利用できるように、施設や設備を維持・管理して、展示室や収蔵施設の最適環境を保つために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	昭和40年代から全国で多くの博物館や美術館が建設されたが、現在それらの施設の老朽化が進んでいる。当館も開館してから32年が経過し、施設の修繕箇所も増えている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に博物館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図ることは、市民の学術・文化水準の向上や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 博物館を維持・管理する(地方自治法の掲げる事業)ことで、学術・調査活動の拠点施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割を持つので、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)に適うものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 展示室や収蔵施設の最適環境を保ち、利用者に快適で安全な環境を提供することは、教育文化施設として当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 施設の修繕や改修について、継続的な改修計画を立てて、施設の延命化を図る必要がある。そのためシャッター工事等の修繕が必要である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 施設・設備の管理業務のうち清掃業務・警備業務の委託は、指名競争入札による長期継続契約を結んでおり、また光熱水費や他の経費も削減に努めているため、事業費のこれ以上の削減の余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 博物館法では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。」と規定している。当館は、現在、常設展のみの場合は無料であるが、企画展開催時だけ有料となっている。入館者は市内外にわたっており、受益者に必要な対価を求めることは妥当であり、他の博物館と比べても負担額は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	博物館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		日本博物館協会参画事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	14845	一般	10	4	4	市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	S58年度～ 年度		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
			根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例		実施方法		直営		
							事業分類		参画事業	
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
日本博物館協会の会員として、負担金を支出している。協会主催の会議・研究会等に参加し、機関誌や報告書等を収集することで、博物館活動・動向に関する情報の収集や交換を行っている。 ※日本博物館協会とは、青少年及び成人による生涯学習の進展を図るため、博物館振興のための調査・研究開発並びに指導・助言を行い、我が国の文化の発展に寄与することを目的として、およそ全国約4,000館を会員として活動している団体である。		(市の活動) 日本博物館協会に負担金(35千円)を支出し、機関誌等を収集する。 (日本博物館協会の活動) 全国大会・全国博物館長会議・指導者研究協議会・講演会等を開催し、『博物館研究』や『全国職員録』等を発行し、会員に提供している。					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
機関誌収集数		部	12	12	12		
会議・研究会参加数		回	0	0	0		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

郷土博物館職員 (参画対象団体) 日本博物館協会	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	対象職員数	人	4	4	4		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

①館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。 ②関係博物館との連携・協力の緊密化を図る。	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	参画で情報を集められた対象職員の割合	%	100	100	100		
	参画の意義を認める対象職員の割合	%	100	100	100		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		35	35	35						
	事業費計(A)	千円		35	35	35		0			0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	35	負担金	35	負担金	35				
	人件費	正規職員従事人数	人	2		2		2				
のべ業務時間		時間	10		10		10					
人件費計(B)		千円	38		38		38		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	73		73		73		0		0	

事務事業名	日本博物館協会参画事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館の開設準備中に、他館の活動状況や最新情報を収集し、館の運営に活用するために団体に入会したことから開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	指定管理者制度や独立行政法人制度が導入可能となり、博物館の運営形態が多様化している。また、国や地方公共団体の緊縮財政により、博物館や美術館等の弱体化が進み、苦しい運営環境に苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 情報交換の場や機会を利用し、他の博物館との相互連携や事業協力を通じて、博物館の資料調査・研究等の振興を図ることで、住民の教育・文化水準の向上につながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 博物館・美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。博物館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 機関誌や報告書等を購読することで、他館の活動状況や最新情報を収集できる。講演会・研究会等参加することで、調査研究や特別展示の着想や歴史・文化資料の調査・研究等の支援が期待できる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 講演会や研究会は、遠隔地での開催や2日以上の日程のものもあるが、緊縮財政の下、職員配置や予算要求が抑制されているので、参加することが難しい。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 郷土博物館が加盟する団体の負担金の他に事業費がないので、事業費を削減する余地はない。人件費も同様である。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 団体の加盟館は、団体が主催する研修会に参加する機会が得られ、また全国の加盟博物館の平常展を無料で見学できるなどの特典を受けられるため、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	加盟団体から脱退すれば事業は終了となるが、団体に加盟することで、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得ることが可能となり、当館の運営に役立つので、休止も廃止も出来ない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		栃木県博物館協会参画事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	事業計画		事業期間	年度～	年度	根拠法令 条例等	市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
							任意的事業・義務的事業		任意的事業	
						実施方法		直営		
						事業分類		参画事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
栃木県博物館協会の会員として、負担金を支出している。また協会主催の会議・研究会等に参加し、機関誌や報告書等を収集することで、博物館活動・動向に関する情報の収集や交換を行っている。 ※栃木県博物館協会とは、県内の博物館等及びその関係者の連絡協調を図り、博物館事業の進展に寄与することを目的として、栃木県内にある博物館及び同施設等と賛助会員から構成されている団体である。		(市の活動) ・栃木県博物館協会に負担金(5千円)を支出。博物館文化財セミナー、会議等出席 (団体の活動) ・総会・研究会・講演会・視察研修会を開催し、機関誌を発行している。					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
機関誌収集数		部	1	1	1		
会議・研究会参加数		回	0	0	0		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

郷土博物館職員 (参画対象団体) 栃木県博物館協会	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	対象職員数	人	4	4	4		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	①館の運営について、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得る。	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	②教育普及活動及び展示等に関する技術の向上を図る。	参画で情報を集められた対象職員の割合	%	100	100	100		
		参画に意義を認める対象職員の割合	%	100	100	100		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	5	5	5			
	事業費計(A)	千円	5	5	5	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	5	負担金	5	負担金	5
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2		
のべ業務時間		時間	20	20	20			
人件費計(B)		千円	76	76	76	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	81	81	81	0	0	

事務事業名	栃木県博物館協会参画事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	郷土博物館の開設準備中に、他館の活動状況や最新情報を収集し、館の運営に活用するために団体に入会したことから開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	指定管理者制度や独立行政法人制度が導入可能となり、博物館の運営形態が多様化している。また、国や地方公共団体の緊縮財政により、博物館や美術館等の弱体化が進み、苦しい運営環境に苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	情報交換の場や機会を利用し、他の博物館との相互連携や事業協力を通じて、博物館の資料調査・研究等の振興を図ることで、市民の教育・文化水準の向上につながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	博物館・美術館経営等の芸術文化事業は、収益性を追求する企業理念にそぐわない。博物館活動の振興は自治体の担うべき事業で、他館との相互連携を図る手段として必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	機関誌や報告書等を得ることで、他館の活動状況や最新情報を収集できる。また、それらの情報を博物館の運営に反映することによって、市民の教育・文化水準の向上につながるため、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	職員の数が少ないため、当館の事業実施と研修会等の日程が重なったりして、中々参加することが出来ないが、県内関係各館との情報交換や学芸員のスキルアップを図るためにも、参加出来るように努める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入				
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	郷土博物館が加盟する団体の負担金の他に事業費がないので、事業費を削減する余地はない。人件費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない		理由・改善案	団体の加盟館は、団体が主催する研修会や視察研修に参加する機会を平等に得られるため、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
加盟団体から脱退すれば事業は終了となるが、団体に加盟することで、他館の状況や活動・動向に関する情報の収集・交換の機会・手段を得ることが可能となり、当館の運営に役立つので、休止も廃止も出来ない。					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		田中正造未公開書簡編纂事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		任意的事業	
	実施方法		直営		事業分類		その他内部事務事業			
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H25年度～		根拠法令 条例等	リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長市政公約		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
田中正造翁没後百年顕彰事業の一環として、田中正造の行動と思想を後世に伝えるため、没後百年となる平成25年度から30年度までの期間で、新発見や未公開の田中正造書簡等の調査を行い、30年に刊行し、正造翁の偉業を顕彰する。 予算は、平成30年以降は認められなかったため今後も資料収集と調査を続ける。		未公開書簡等の調査 ・博物館購入資料・・・ 2点 ・博物館寄贈資料・・・ 85点						
		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
		田中正造未公開書簡等の資料数	点	0	4	87		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

正造関係博物館収蔵資料		対象指標	単位	29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
		正造関係博物館収蔵資料	点	14,197	14,202	14,289		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

正造ゆかりの博物館として、正造関係の未公開書簡等資料を継続的に調査し、正造の思想、行動を探究する。		成果指標	単位	29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
		正造関係博物館収蔵資料	点	14,197	14,202	14,289		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
		企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
		博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	0		0		0					
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	正規職員従事人数	人	2		2		2				
のべ業務時間		時間	30		30		30					
人件費計(B)		千円	114		115		114		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	114		115		114		0		0	

事務事業名	田中正造未公開書簡編纂事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成20年3月に岩波書店から発行された『田中正造 未発表書簡集』以降の未公開書簡について、いくつか発見されているものがあるため、没後百年顕彰事業の一環として今後も調査を行い、博物館においてまとめたものを刊行することで、正造の偉業を顕彰する。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	東日本大震災等による原発問題や環境問題への関心が高まっているとともに、没後百年を契機として、正造翁の偉業を顕彰する重要性が深まってきているため、正造関係の未公開書簡等をまとめたものとして、顕彰事業を行ううえで重要となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	広報さの、新聞等で正造関係資料について呼びかけたところ、少なからず情報提供が実際に来ている。また、この事業は、市民、市議会議員等で構成する田中正造翁没後百年顕彰事業実行委員会、承認を受けた。

1. 事務事業の現状把握【DO】

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	広報さの、新聞等で正造関係資料について呼びかけたところ、少なからず情報提供が実際に来ている。また、この事業は、市民、市議会議員等で構成する田中正造翁没後百年顕彰事業実行委員会、承認を受けた。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	正造翁の偉業を永く後世に伝えるためには、正造ゆかりの博物館として、市が中心となって調査を行う必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	郷土博物館は、田中正造ゆかりの博物館として従来から正造の顕彰を図っており、没後百年を契機として田中正造の貴重な資料を調査し、後世に伝えることは、地域に誇りと愛着を持つ人々を育成にも繋がるため、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	正造関係未公開書簡等を積極的に収集し、調査・研究することにより、正造翁の偉業を広めることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	予算が認められなかったが、今後も最小の予算で刊行できるよう調査と資料収集に努める。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求めない	理由・改善案	現在は受益者負担はないが、編纂終了後は博物館において有償頒布する予定のため、刊行にあたっては適正な受益者負担を求め必要がある。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	顕彰事業の目的である「正造翁の偉業を広め、永く後世に伝える」ためには、継続的に資料収集を行う必要がある。田中正造関係資料購入事業とともに調査内容を取りまとめ刊行できれば、一定の成果として事業終了となる。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									

事務事業名		美術館講座等開催事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					事業区分	担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり						担当係	吉澤記念美術館	担当課長名	上岡幸宏		
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存						新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進						実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							
	14961	一般	10	4	7	美術館講座等開催事業							
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H 14 年度～ 年度			根拠法令等	博物館法 佐野市立美術館条例						
							市単独事業・国県補助事業	市単独事業					
							任意的事業・義務的事業	任意的事業					
							実施方法	直営					
							事業分類	講座・教室・イベント等開催事業					
							リーディングプロジェクト	該当					
							市長市政公約	該当なし					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
美術館において、展覧会以外に、講演会・体験教室・コンサート等、美術館や美術に親しむ機会を提供する。 メインとなる企画展の理解を一層深めるため、スケジュール・内容を組む。 令和元年度は、恒例の地元葛生の特産品石灰を使ったフレスコ画教室を1回、2000年以降美術館周辺核施設に制作されてきたフレスコ壁画の見学会を3回・陶芸教室を実施した。講演会とコンサートは災害等の影響により中止した。	主な講座や講演会 ①フレスコ壁画見学会 R1.6.15(土)・10.20(日) (定員なし) ②体験教室「フレスコ画体験教室」 R1.7.20(土)(定員:15名 参加者:15名)参加率 100% ③陶芸体験教室 R1.6.1(土)(定員:20名 参加者:25名)参加率 125%					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
講座等開催数	回	13	10	3		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

・市民 ・講座受講者	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	佐野市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
	講座定員数	人	180	185	35		
	講座参加者数	人	255	203	40		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

①講座への参加をきっかけに、郷土や美術への理解を深めてもらう。 ②美術鑑賞の楽しみ方や美術館の魅力を知ってもらう。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	参加者に対する市民の割合	%	82.0	48.6	42.1		
	定員に対する受講者の割合	%	137.2	109.7	114.3		
	満足を感じた人の割合(アンケート回答より)	%	75.3	78.5	89.4		

④ 結果(どのような結果に結びつけますか?)

地域の歴史・文化資源について学んでもらい、郷土を育む心が育つ。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演・図録及び要覧等発行件数	件		17.0	7.0		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円			23		14					
	一般財源	千円		32	71		66					
	事業費計(A)	千円		32	94		80		0			0
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	70	報償金	60	報償金	50				
			消耗品費	24	消耗品費	28	消耗品費	26				
食糧費			4	食糧費	6	食糧費	4					
人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3							
	のべ業務時間	時間	150	150	150							
	人件費計(B)	千円	572	573	572	0	0					
	トータルコスト(A)+(B)	千円	604	667	652	0	0					

事務事業名	美術館講座等開催事業	担当部	産業文化部	担当課	文化立市推進課	担当係	吉澤記念美術館
-------	------------	-----	-------	-----	---------	-----	---------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成14年開館記念展の講演会の開催を契機に、展覧会のみではなく、実技体験・講座・コンサートなどの事業も、芸術への理解を深め、美術館を活性化させるための重要な活動の一つであると考え開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国内の美術館情勢を見ると、教育普及活動の一環でもある講座開催の重要性はますます深まっている。また、県内でもこれらの活動に関する情報交換は盛んになってきている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	講座参加者からは、体験型ものは、「他にない良い講座で楽しかった。」との感想が寄せられた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市民に対し講座参加の機会を提供することは、地域社会の文化振興に寄与することを目的としている佐野市立美術館条例の趣旨に沿うものであり、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	広く生涯学習の機会を提供することは、美術鑑賞になじみにくさを感じている人にも受け入れやすく、公平性からみても、市が行うことは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	講座参加者のうち佐野市民の占める割合は高い。また、毎回参加率は高く、児童・生徒や、美術館への来館頻度の少ない層の参加も常に一定数見られ、美術館利用者の多様化に貢献していることから、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	毎年開催しているフレスコ画体験教室・陶芸教室を除き、その時々展覧会に合わせて行っている。したがって、毎回レベルアップの努力をしているのが実情である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	フレスコ画体験教室では、地元の関連団体から、毎年画材の提供を受けている。消耗品等は、できるだけ在庫の物を利用しており、これ以上の事業費の削減は難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	講座では、参加者から材料費相当の負担金を徴収しており、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 参加者からは継続して実施を望む声が多い。 また、体験教室・講座等、市民の文化向上のため美術館独自のものとして定着、好評であり、廃止すべきではない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生化石館講座等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生化石館		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14839	一般	10	4	4	葛生化石館講座等開設事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館 条例		任意の事業・義務の事業		
							実施方法		直営		
							事業分類		講座・教室・イベント等開催事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような体験講座等を企画開催する。 受講者は、広報・ホームページ等を通じて募集した。また、出張講座を希望する学校等に出かけて講座を実施した。 材料費等が生じるものは参加者負担金を徴収した。		<ul style="list-style-type: none"> ・地質の日記念事業「化石とあそぼう」(5/12) ・化石採集教室(8/3) ・つくってみよう鉱物万華鏡講座(8/18、12/3) ・化石の日記念事業「化石をまなぼう」(10/13)、ジオウォーキング(11/2)、化石採集教室(11/23・3/20)は災害対応のため中止 						
企画→参加者募集→事前準備→講座実施		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
		受講者数	人	532	409	420		
		自主講座開設数	回	7	7	4		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民 受講者	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
	受講者数	人	532	409	420		
	来館者数	人	22,321	23,955	18,009		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

市民の文化教養を高め、学習意欲の向上を目指す。より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
	受講者数/市の人口	%	0.4	0.3	0.4		
	受講者数前年対比	%	128.5	76.8	102.7		
	参加して良かった/受講者数	%	94.3	97.0	98.8		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	123		102		74		155			
	一般財源	千円	0		0		26		38			
	事業費計(A)	千円	123		102		100		193		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			旅費	4	旅費	2	旅費	2	旅費	6		
			消耗品費	114	消耗品費	94	消耗品費	95	消耗品費	171		
傷害保険料			5	傷害保険料	6	傷害保険料	3	傷害保険料	16			
正職員従事人数	人	2		2		2		2				
のべ業務時間	時間	500		500		500		500				
人件費計(B)	千円	1,908		1,911		1,908		1,908		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,031		2,013		2,008		2,101		0		

事務事業名	葛生化石館講座等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	--------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成16年より専任の学芸員が配属になり、平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった頃から、講座を積極的に実施するようになった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、講座等の教育事業が開始した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	参加してよかった。楽しかった。今後も開催して欲しいという要望(アンケートやメール)が多数ある。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	地域の化石・鉱物等に触れる体験を通し、自然科学の理解を深めることで、市民に地域の歴史や伝統・産業を知ってもらい郷土への愛着を育むことにつながり妥当である。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治体の役割である。講座等への参加機会を安価に提供することは、公共の施設でなければ難しい。また化石採集教室などは、市が行うという信頼により、化石産地や鉱山の立ち入りが許可されている。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	この事業は化石・鉱物等に触れる体験を通し、自然科学の理解を深めるものであり、市民の文化教養の向上、生涯学習の推進を目的としている。化石館の見学者も増えることになり、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	地質の日イベント、化石採集教室は人気が高いが、他の講座への参加は市民に対しての周知が十分とは言えず、今後参加者を増やせる余地は有ると考える。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	この事業は、必要な消耗品等が主なもので、委託せずに職員が企画から実施まですべてを行っているため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	平成25年度より、講座参加者から参加者負担金を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	企画展と並び、市民に広く体験等学習してもらう教育プログラムは、主要な博物館機能であり、化石館が開館している間は終了できない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生化石館企画展等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生化石館		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14838	一般	10	4	4	葛生化石館企画展等開設事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令等	博物館法、佐野市博物館条例				
	事業区分						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
	事業区分						実施方法		直営		
事業区分						事業分類		講座・教室・イベント等開催事業			
事業区分						リーディングプロジェクト		該当なし			
事業区分						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
<p>常設の展示とは別に、企画展を年数回実施する。 これはテーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激するため、保管する膨大な収蔵品や他館の資料を借用して行う。 さらに企画展の関連講座を夏頃実施する。</p>		<p>・企画展『海の化石の似たもの展』7月20日(土)～令和2年2月16日(日)〔136日間〕 台風19号の影響で、会期を変更。当初は、11月24日(日)までの予定 ・企画展『第14回新着標本展』令和2年2月22日(土)～4月12日(日) ・企画展関連講座 講演会『絶滅ホタテの生活をさぐる』(10/13) 災害対応のため中止。 ・10月12日～11月24日、3月8日～24日は災害対応のため休館。</p>						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		開催期間入館者数	人	14,391	19,936	11,950		
		企画展開催数	回	3	3	2		
		講演会参加者数	人	92	41	0		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
		開催期間入館者数	人	14,391	19,936	11,950		
		来館者数	人	22,321	23,955	18,009		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		開催期間入館者数/市民数	%	9.6	16.7	10.0		
		期間中入館者前年度比	%	65.8	138.5	59.9		
		満足度	%	92.9	92.2	92.8		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	55		133		89		157			
	事業費計(A)	千円	55		133		89		157		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	30	報償費	32	報償費	0	報償費	34		
			旅費	0	旅費	0	旅費	0	旅費	13		
			需用費	16	需用費	39	需用費	6	需用費	38		
			動産保険料	5	動産保険料	5	動産保険料	16	動産保険料	13		
有料道路使用料			4	作成委託料	50	作成委託料	63	作成委託料	50			
		有料道路使用料	7	有料道路使用料	4	有料道路使用料	9					
人件費	人	2		2		2		2				
のべ業務時間	時間	500		500		500		500				
人件費計(B)	千円	1,908		1,911		1,908		1,908		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,963		2,044		1,997		2,065		0		

事務事業名	葛生化石館企画展等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが改装し、化石資源(葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など)を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。また、企画展関連の講演会の開催を楽しみにしているとの声も有る。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	地域の化石・鉱物等の展示を通し、自然科学の理解を深めることで、市民に地域の歴史や伝統・産業を知ってもらい、郷土への愛着を育むことにつながり妥当である。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	郷土の自然・歴史・産業等に関する資料を収集・保管・調査・研究及び展示して、教育的配慮のもとに市民一般の利用に供することは、当然市が行うべき事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	今年度は災害により減少したが、近年、入館者数は増加傾向にある。しかし、市民に対して周知が十分であるとは言えず、更に市民や小中学校等に周知をする。また、市外から当館のホームページを検索する利用者も多いため、こまめなホームページ更新を心がけ観光客の入り込みを図る。より一層PR等を工夫し、周知を図る必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
	*類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	平成21年度は館長が配置され職員が増えたが、平成22年度以降2名(館長は兼務)となり、ぎりぎりの体制であり人件費削減の余地はない。また事業費の計上がわずかで、良質な企画展を開催するには不足しているが、学芸員の人脈を頼りに資料を借用し実施しているため、これ以上減らすことは難しい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は、現在入館料が無料となっている。自然科学系博物館という特質上、入館者は子どもや青年層が非常に多い傾向がある。有料になった場合入館者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	佐野市における化石、鉱物、地質に関する常設展示とともに、テーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激する企画展は、もっとも重要な博物館機能であり、化石館が開館している間は終了できない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
*評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		葛生化石館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生化石館		担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業			
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	14837	一般	10	4	4	葛生化石館運営事業						
	事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度	根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館 条例		事業区分		市単独事業・国県補助事業	市単独事業
											任意的事業・義務的事業	任意的事業
										実施方法	直営	
										事業分類	施設維持管理事業(市主体)	
										リーディングプロジェクト	該当なし	
										市長市政公約	該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
葛生化石館を運営していくための事業。 資料の管理、整理、学芸業務補助のため臨時嘱託員の任用を行っている。他に資料寄贈者などへの謝礼、事務用経費、ボランティア活動、展示用パネルや標本作製などを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時嘱託職員による標本管理、事務補助 ・ボランティアによる事業・講座補助。勉強会、調査研究 ・ジオサイトマップの作成 ・パソコン、複写機等借上げ、各種事務用消耗品購入 						
	活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
	収蔵資料数	点	1,998	2,033	2,075		
	入館者数	人	22,321	23,955	18,009		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者 展示資料(常設展)	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
	展示資料数	点	635	635	635		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

より多くの人に佐野市から豊富に産出する化石、鉱物などを通じ自然科学について関心を持ってもらう。 入館者に利用しやすい環境を整える。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
	入館者数/市の人口	%	18.6	20.1	15.2		
	広報紙、情報誌等掲載回数	回	47	43	50		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	57		80		40					
	一般財源	千円	2,927		2,756		2,589					
	事業費計(A)	千円	2,984		2,836		2,629		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			臨時嘱託員費	2,089	臨時嘱託員費	2,093	臨時嘱託員費	2,054	臨時嘱託員費	2,874		
			報償費	13	報償費	9	報償費	5	報償費	15		
			旅費	18	旅費	37	需用費	176	旅費	97		
			需用費	293	需用費	202	役務費	86	需用費	177		
役務費			46	役務費	169	委託料	169	役務費	131			
委託料			302	委託料	168	使用料及び賃借料	139	委託料	450			
使用料及び賃借料			223	使用料及び賃借料	230			使用料及び賃借料	196			
備品購入費	0	備品購入費	0									
正規職員従事人数	人	2		2		2		2				
のべ業務時間	時間	2,124		2,060		2,060		2,060				
人件費計(B)	千円	8,105		7,871		7,859		7,859		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	11,089		10,707		10,488		7,859		0		

事務事業名	葛生化石館運営事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	-----------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが改装し、化石資源(葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など)を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。開設当初からボランティアが事業に協力している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ知られていないのでPRすべきであるという声がある。初めての来館者から、思ったより内容が素晴らしいので驚いた。楽しかった等好評を得ている。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 市民や利用者の利便を図り、他の博物館・研究機関との連携を図ることで、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上(博物館法が目指す目的)や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 郷土の自然・歴史・産業等に関する資料を収集・保管・調査・研究及び展示して、教育的配慮のもとに市民一般の利用に供することは、当然市が行うべき事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 市民や利用者の利便を図り、博物館・研究機関との連携を図ることは、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上や博物館資料の蓄積につながる。ただし今後、資料の収集、寄贈の基準を整備する必要がある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 入館者数は増加傾向にあるが、更に市民や小中学校等に周知する。また市外から当館のホームページを検索する利用者も多いため、こまめなホームページ更新を心がけ観光客の入り込みを図る。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 平成21年度は館長が配置され職員が増えたが、平成22年度以降2名(館長は兼務)となり、ぎりぎりの体制であり人件費削減の余地はない。事業費も博物館施設として機能を適正に運営させるには減らすことは難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 当館は、現在入館料が無料となっている。自然科学系博物館という特質上、入館者は子どもや青年層が非常に多い傾向がある。有料になった場合入館者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 化石館が開館している間は、施設の運営管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生化石館維持管理事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生化石館		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14833	一般	10	4	4	葛生化石館維持管理事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H14年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館 条例		任意の事業・義務の事業		
							実施方法		直営		
							事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
葛生化石館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、更に化石館で収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図る。 ・展示室照明器具類維持 ・常設展示動産保険の加入 ・展示室くん蒸及び環境調査業務委託 ・空調及び換気設備保守点検業務の委託 ・化石館所有車を維持管理する。		・照明器具等の維持管理のための消耗品を購入 ・常設展示動産保険の加入 ・年1回のくん蒸実施(7/6.7/7空間殺虫、防カビ処理、トラップ設置。8・10月トラップ回収) ・展示室空調機器の保守点検(年2回)の実施。 ・公用車の車検及び修繕(バッテリー、エンジンチェックランプセンサー交換)						
		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
		業務委託件数	件	2	2	2	2	
		保守点検回数	回	2	2	2	2	

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

化石館の施設・設備 収集資料 市民及び市外からの入館者		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (見込)	R3年度 (見込)
		施設面積	m ²	571	778	778		
		入館者数	人	22,321	23,955	18,009		
		収集資料数	点	1,998	2,033	2,075		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

施設・収集資料の良好な維持管理を図る。入館者が不都合なく安全に利用する。		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
		施設トラブル件数	件	0	0	0		
		適切な収蔵件数/収蔵資料総数	%	100	100	100		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒に歴史・文化資源を学び理解してもらい、郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (目標)	R3年度 (目標)
		佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	1,716		2,203		1,463		1,851			
	事業費計(A)	千円	1,716		2,203		1,463		1,851		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費、燃料費	181	消耗品費、燃料費	243	消耗品費、燃料費	204	消耗品費、燃料費	277		
			修繕費	590	修繕費	609	修繕費	155	修繕費	324		
			手数料	25	手数料	0	手数料	11	手数料	0		
			自動車保険料	47	自動車保険料	20	自動車保険料	46	自動車保険料	20		
損害保険料			99	損害・賠償責任保険料	104	損害・賠償責任保険料	104	損害・賠償責任保険料	109			
委託料			740	委託料	797	委託料	909	委託料	1,121			
公課費	34	公課費	0	公課費	34	公課費	0					
		備品購入費		430								
正規職員従事人数	人	2		2		2		2				
のべ業務時間	時間	600		600		600		600				
人件費計(B)	千円	2,290		2,293		2,289		2,289		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	4,006		4,496		3,752		4,140		0		

事務事業名	葛生化石館維持管理事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生化石館
-------	-------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧葛生町郷土資料室の一部に化石を展示していたが改装し、化石資源(葛生動物群、化石・鉱物・各種標本など)を展示する「化石館」とした。平成17年の合併により「佐野市葛生化石館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年に学芸員が配置され、展示内容が充実した。平成17年に博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。市内から化石資源が豊富に産出することから、平成24年度に佐野市を特徴づける佐野ブランド「佐野市の化石」として認証された。また当館は収蔵庫が少なく、資料の寄贈等が年々増加するため苦慮している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	資料及び内容が充実している。まだまだ館の存在を知られていないので、PRすべきであるという声がある。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 社会教育の場である施設の維持管理を図ることで、利用者に良好な環境を提供し、また収集・保管・展示する貴重な資料の保存を図ることで、地域の歴史や伝統・産業を知り、郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 市民に対して、地元石灰産業への理解を促す使命は大きい。本施設は、化石資源の有効活用や葛生動物群、化石に特化した数少ない施設であり、教育施設として市が維持管理を行うべきものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 利用者に対し、施設や収蔵資料を良好な状態で維持管理することは当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 施設や資料の点検、温度・湿度管理を定期的に実施していくことで施設トラブル件数の減少を図る。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 平成21年度に館長が配置され職員が増えたが、平成22年度以降2名(館長兼務)となり、ぎりぎりの体制であり人件費削減の余地はない。事業費も年々施設の老朽化が進む中で減らすことは難しい。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 当館は、現在入館料が無料となっている。自然科学系博物館という特質上、入館者は子どもや青年層が非常に多い傾向がある。有料になった場合入館者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		化石館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生伝承館講座等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生伝承館		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	18482	一般	10	4	4	葛生伝承館講座等開設事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	16年度～ 年度		根拠法令条例等	博物館法、佐野市博物館条例		任意の事業・義務の事業		
							実施方法		直営		
							事業分類		講座・教室・イベント等開催事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような体験講座等を企画開催した。 受講者は、広報等を通じて募集した。また、材料費等は実費を負担金として徴収している。 講座の企画→参加者募集→講座の事前準備→講座実施		<ul style="list-style-type: none"> こどもの日民話語り(5月5日) コマやヨーヨーに絵付けをして遊ぼう(8月7日) 葛生化石館共催「つくってみよう! 鉱物万華鏡」(8月18日) 葛生化石館共催「つくってみよう! 鉱物万華鏡」(12月3日) 楽しく絵付け 私の羽子板(1月10日) 					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
講座等開催数		回	6	4	5		
受講者数		人	177	154	160		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

受講者 市民	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	受講者数	人	177	154	160		
	市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
	入館者数	人	6,718	8,049	5,522		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

郷土の関わりのある伝統・文化・芸能に対し、興味を持ってもらう。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	講座を面白いと感じた/アンケート回答者数	%	84.4	68.9	92.3		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒において歴史・文化資源を継承し郷土を育む人材を育成する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	18	9	17	13				
	一般財源	千円	10	22	4	15				
	事業費計(A)	千円	28	31	21	28	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	0	報償費	5	報償費	0	報償費	5
			消耗品費	28	消耗品費	26	消耗品費	21	消耗品費	23
正規職員従事人数	人	1	1	1	1					
のべ業務時間	時間	97	97	97	97					
人件費計(B)	千円	370	371	370	370	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	398	402	391	398	0				

事務事業名	葛生伝承館講座等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	--------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。館内は手狭なため講座は限られ、隣接の公民館を会場として、工夫しながら講座を開催している。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	子どもも楽しめるような体験型イベントを実施して欲しいとの意見がある。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	市民に対し広報宣伝を積極的に行い、更なる周知を図った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 市民に伝統・文化を知ってもらうことは郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 郷土芸能の保存と伝承に寄与する施設として、市が開設したので、講座の開設も実施すべきである。ただし、内容によって市民講師などによる協働は可能である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 講座の内容の充実や、他の事業との連携により、成果を向上させる余地がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も同様である。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 講座参加者から参加者負担金を徴収している。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	企画展と並び、市民に広く体験等学習してもらう教育プログラムは、主要な博物館機能であり、伝承館が開館している間は終了できない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 講座の内容の充実を図る。	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	外部講師などの活用を図る。
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	

事務事業名		葛生伝承館企画展等開設事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生伝承館		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14841	一般	10	4	4	葛生伝承館企画展等開設事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	16年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法、佐野市博物館条例		任意の事業・義務の事業		
							実施方法		直営		
							事業分類		講座・教室・イベント等開催事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
県指定有形民俗文化財「吉澤人形頭」、県指定無形民俗文化財「牧歌舞伎」関連資料を中心に、佐野市に伝わる神楽・牧歌舞伎・節句人形などの伝統芸能や民俗資料を企画展で展示、紹介する。		・「雛人形展 4月1日(月)～4月7日(日)〔6日間〕 ・「五月飾りと武者絵展」 4月23日(火)～6月22日(土)〔54日間〕 ・「神楽の面と衣裳展」 7月15日(月)～9月16日(月)〔55日間〕 ・「牧歌舞伎と吉澤人形頭展」 10月1日(火)～1月26日(日)〔災害により55日間に短縮〕 ・「雛人形展」 2月8日(土)～3月31日(火)〔新型コロナウイルスの影響により30日間に短縮〕						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		企画展開催期間入館者数	人	6,718	8,049	5,522		
		企画展開催期間日数	日	258	256	200		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
		企画展開催期間入館者数	人	6,718	8,049	5,522		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

多くの優れた佐野市の文化や芸能に関する資料を集め、より多くの人に鑑賞してもらえるようにする。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		企画展開催期間入館者数／市の人口	%	5.6	6.7	4.7		
		入館者数前年対比	%	72.5	119.8	68.6		
		満足度	%	73.9	75.5	74.7		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒において歴史・文化資源を継承し郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	236		234		235		263			
	事業費計(A)	千円	236		234		235		263		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	78	消耗品費	76	消耗品費	77	消耗品費	76		
			作成委託料	158	作成委託料	158	作成委託料	158	作成委託料	187		
正規職員従事人数	人	1		1		1		1				
のべ業務時間	時間	300		300		300		300				
人件費計(B)	千円	1,145		1,146		1,145		1,145		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,381		1,380		1,380		1,408		0		

事務事業名	葛生伝承館企画展等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度学芸員の配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。牧歌舞伎、吉澤人形頭だけではリピーターを呼ぶことは難しいので、新しい企画を取り入れていく必要がある。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	継続してさまざまな展示を行って欲しい、文楽や歌舞伎を見たいなどの市民の声がある。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	市民に対し広報宣伝を積極的に行い、更なる周知を図った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 市民に伝統・文化を知ってもらうことは郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 郷土の伝統・文化に関する資料を収集、保護、研究することは、市が行う事業と考えられる。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 市民に対して周知が十分であるといえず、周知方法を工夫したい。また企画展の内容を充実させ、他の事業とのつながりを持たせていくことで、成果をさらに向上させることができる。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も同様である。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 当館は現在入館料が無料になっている。郷土芸能や民俗資料を展示している特質上、高齢者の入館が非常に多い。そのため有料になった場合、利用者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	所有する資料を中心に、テーマごとに深く掘り下げて知的好奇心を刺激する企画展は、もっとも重要な博物館機能であり、伝承館が開館している間は終了できない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 広報、宣伝に工夫し、積極的な呼びかけを行い更なる周知を図る。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	
	コスト																			
	削減	維持	増加																	
成果	向上	○																		
	維持		×																	
	低下	×	×																	

事務事業名		葛生伝承館運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	葛生伝承館		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14840	一般	10	4	4	葛生伝承館運営事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	16年度～ 年度		根拠法令条例等	博物館法、佐野市博物館条例		任意の事業・義務の事業		任意の事業
							実施方法		直営		
							事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
葛生伝承館を運営していくための事業。資料の収集整理・学芸業務補助のため臨時嘱託員を任用する。他に収集資料の修繕や、受付業務の委託、資料提供などへの謝礼、調査などにかかる旅費、事務用経費、展示品の修繕などを行っている。		<ul style="list-style-type: none"> ・臨時嘱託職員による事務補助、施設管理補助・受付業務委託 ・吉澤人形頭5体修理 ・受付業務委託 ・パソコン、複写機借上げ、各種事務用消耗品購入 					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
入館者数		人	6,718	8,049	5,522		
業務委託件数		件	2	2	2		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民及び市外からの入館者 展示資料		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		市の人口	人	120,018	119,348	118,450		
		展示資料数	点	268	275	221		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的		成果指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
入館者に利用しやすい施設を整える。展示資料を見学することにより地域の伝統・文化を知ってもらふ。		入館者数/市の人口		%	5.6	6.7	4.7		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒において歴史・文化資源を継承し郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合	%	91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	5		5		5		7			
	一般財源	千円	5,563		5,583		5,883		6,848			
	事業費計(A)	千円	5,568		5,588		5,888		6,855		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			臨時嘱託員経費	2,088	臨時嘱託員経費	2,093	臨時嘱託員経費	2,054	臨時嘱託員経費	2,874		
			報償費	0	報償費	2	報償費	0	報償費	4		
旅費			0	旅費	0	旅費	0	旅費	73			
需用費			362	需用費	385	需用費	475	需用費	490			
通信運搬費			121	通信運搬費	118	通信運搬費	118	通信運搬費	132			
受付業務委託料等			2,693	受付業務委託料等	2,814	受付業務委託料等	3,098	受付業務委託料等	3,095			
事務機借上料等			244	事務機借上料等	176	事務機借上料等	143	事務機借上料等	187			
備品購入費	61	備品購入費	0	備品購入費	0	備品購入費	0					
正規職員従事人数	人	1		1		1		1				
人件費の業務時間	時間	1,000		1,000		1,000		1,000				
人件費計(B)	千円	3,816		3,821		3,815		3,815		0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	9,384		9,409		9,703		10,670		0		

事務事業名	葛生伝承館運営事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	-----------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度から学芸員を配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。パリアフリーの建築であることや展示物が郷土芸能など親しみやすいため、老人福祉施設の入館者が増えている。収蔵庫が狭いため寄贈、寄託の受け入れは困難である。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	案内が親切、身近にこのような施設が有り良いなどの声がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	ホームページ等により、施設の更なるPRを行った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	市民に伝統・文化を知ってもらうことは郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	郷土の伝統・文化に関する資料を収集、保護、研究することは、市が行う事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	市民や利用者の利便を図り、郷土芸能等の保存・調査活動を行うことで、市民の学術・文化水準の向上や資料の蓄積につながる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	創意工夫した周知方法の研究
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である		理由・改善案	当館は現在入館料が無料になっている。郷土芸能や民俗資料を展示している特質上、高齢者の入館が非常に多い。そのため有料になった場合、利用者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)				
伝承館が開館している間は、施設の管理運営は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。					

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		葛生伝承館維持管理事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	葛生伝承館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14827	一般	10	4	4	葛生伝承館維持管理事業				
						事業区分	市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	16年度～	年度	根拠法令等	博物館法、佐野市博物館条例			
						任意の事業・義務の事業	任意の事業			
						実施方法	直営			
					事業分類	施設維持管理事業(市主体)				
					リーディングプロジェクト	該当なし				
					市長市政公約	該当なし				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
葛生伝承館の施設を維持管理する。 ・光熱水費の支出 ・建物・設備等の修繕実施 ・建物の損害共済保険への加入 ・館内くん蒸の実施 ・清掃、警備の委託 ・空調設備保守点検業務の委託		<ul style="list-style-type: none"> ・清掃、警備(長期)、空調設備、消防設備の保守点検 ・年1回のくん蒸実施。7月1～5日に空間殺虫、防カビ処理 ・建物損害共済保険への加入 ・空調設備修繕、自動ドア修繕等 					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
業務委託件数		件	4	4	4		
保守点検回数		回	7	7	7		
修繕件数		件	4	3	3		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

伝承館の施設・設備 収蔵資料 市民及び市外からの入館者 施設		対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
施設面積		㎡		323	323	323		
入館者数		人		6,718	8,049	5,522		
収蔵資料数		点		674	676	791		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

施設を安全で良好に維持管理する。 利用者が不都合なく安全に利用する。		成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
施設が安全で良好に使われた割合		%		100.0	100	100		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒において歴史・文化資源を継承し郷土を育む人材を育成する。		上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
佐野市の歴史と伝統を知っている市民の割合		%		91.8	93.1	91.9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	4,022	4,413	3,919	4,612				
	事業費計(A)	千円	4,022	4,413	3,919	4,612	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	1,627	需用費	1,301	需用費	1,367	需用費	1,769
			役務費	67	役務費	69	役務費	56	役務費	75
くん蒸委託料等			918	くん蒸委託料等	939	くん蒸委託料等	1,049	くん蒸委託料等	1,177	
清掃委託料			771	清掃委託料	800	清掃委託料	780	清掃委託料	895	
警備委託料			382	警備委託料	382	警備委託料	386	警備委託料	390	
空調・消防設備委託料			257	空調・消防設備委託料	279	空調・消防設備委託料	281	空調・消防設備委託料	306	
備品購入費			643							
正規職員従事人数	人	2	2	2	2					
のべ業務時間	時間	900	900	772	772					
人件費計(B)	千円	3,434	3,439	2,945	2,791	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	7,456	7,852	6,864	7,403	0				

事務事業名	葛生伝承館維持管理事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	葛生伝承館
-------	-------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	県指定有形民俗文化財『吉澤人形頭』、県指定無形民俗文化財『牧歌舞伎』関連資料等の寄付や寄託を受け、旧葛生町により平成16年に地域文化・芸能を紹介する施設として、吉澤記念美術館別館「葛生伝承館」が開館した。平成17年合併により佐野市郷土博物館別館「佐野市葛生伝承館」となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成16年度から学芸員を配置、平成17年博物館登録をし、博物館としての機能が整備された。バリアフリーの建築であるが、収蔵庫が狭い施設である。開設後11年を経過し、施設や設備の修繕が増えてきた。令和元年度からは学芸員ではない職員が配置されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	館内がきちんと整理整頓されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	伝統・文化を伝える施設の良好な維持管理を図ることは、ひいては地域の歴史と伝統を知り、郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	伝承館を維持管理することで、学術・調査活動の拠点施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割を持つので、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)にかなうものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	利用者に対し、施設や収蔵資料を良好な状態で維持管理することは当然のことであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	館の施設点検は一日に何度も行っている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	職員1名で運営しており、ぎりぎりの体制であり削減の余地はない。事業費も施設・設備の維持管理のぎりぎりの予算であり削減できない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	当館は現在入館料が無料になっている。郷土芸能や民俗資料を展示している特質上、高齢者の入館が非常に多い。そのため有料になった場合、利用者が激減することが予想される。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
伝承館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、事業の休止・廃止は出来ない。閉館となれば、事業は終了する。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土博物館学校利用推進事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14849	一般	10	4	4	郷土博物館学校利用推進事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H2年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例				
					事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		直営		
						事業分類		教育・指導事業		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
市内小学3・4・6年生の社会科授業補助の一環として、学習進度にあった適切な時期に博物館資料の見学や体験学習を通して、児童が歴史に関する知識の習得・佐野市に対する郷土愛を育むための援助指導を行う。 当館職員の他、展示解説ボランティアの協力を得ながら、展示資料解説・体験学習の指導を行う。		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
		・市内小学6年生の「歴史学習」での博物館利用(5～6月) ・市内小学4年生の「きょう土につくした人々」での博物館利用(10月～11月)※ ※ 台風19号の影響で、臨時休館したため全学校の実施はできなかった。 ・市内小学3年生の「くらしのうつりかわり」での博物館利用(1月～2月) 来館児童数……2680人						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		市内小学校6年生の利用校数	校	26	26	26		
		市内小学生4年生の利用校数	校	26	26	17		
		市内小学校3年生の利用校	校	26	26	26		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市内小学3・4・6年生の児童		対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		来館児童数	人	2,892	2,840	2,680		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土を誇りに思い愛する意識をもたせる。		成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		利用学校数/市内学校数	%	100	100	88		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		
		歴史・文化資源に関するボランティア養成や活動等の件数	人	463	453	284		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	79		79		76					
	事業費計(A)	千円	79		79		76		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	79	消耗品費	79	消耗品費	76				
	人件費	正規職員従事人数	人	2		2		2				
のべ業務時間		時間	100		100		100					
人件費計(B)		千円	382		382		382		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	461		461		458		0		0	

事務事業名	郷土博物館学校利用推進事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	学校教育のよりよい援助活動ができるように平成元年度から準備を始め、平成2年度から開始した。その中で、県婦人教育連絡協議会(当時)佐野支部委員と市報を通じて公募に応募した女性たちによる「展示解説ボランティア」が結成され活動を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	学習指導要領にも謳われているが、児童の学習内容習得のために学校と博物館との協力体制がますます重要視されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	博物館において歴史資料を直接見たり、触れたり、体験したりすることができるため学習効果が高まるとの意見を各学校の先生たちからいただいている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？		
	結びついている	理由・改善案	小学生の時から佐野市の歴史について学ぶ場を提供することは、将来の「佐野市の歴史と伝統を理解した市民」を増やすことにつながり、結果として郷土への誇りと愛着心を育むことになる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	歴史資料を実際に見るといことは、小学生にとってとても貴重な体験である。子どもたちに公平で良質な学習体験の機会を提供し、郷土に誇りと愛着を持つ子どもたちを育成することは、市の責務である。本事業は公共関与が妥当である。
有効性 評価	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	学習進度にあった適切な時期に博物館見学を行うことで、児童が佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土愛を育むことにつながる。子どもたちに公平に学習体験の機会を提供するために、市内全小学校3・4・6年生を対象にすることは妥当である。
	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	児童への解説内容・方法を工夫してわかりやすくするなど、改善の余地はある。また、解説ボランティアの方々が高齢化しているため、ボランティア養成講座を開催し、新しくボランティアを募集する必要がある。また、臨時休館等で学校が博物館に來れない場合は、出前授業を検討する。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	事業費に関しては、体験学習に必要な消耗品費のみのため削減することはできない。実際のところ、今の予算では、消耗品費が不足している。さらに人件費においても、ボランティアの方々の協力も得て、対応している状態であり、削減は難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	義務教育と関連のある事業であり、教育課程に基づく活動に対する入館料の減免は、社会的に当然視されている。受益者負担を求めるとは必要はない。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		学習指導要領において児童の学習内容が変更になればこの事業は休止になる。
公平性 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		学習指導要領において児童の学習内容が変更になればこの事業は休止になる。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		学習指導要領において児童の学習内容が変更になればこの事業は休止になる。

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									
従来の実施方法を継続するだけでなく、臨時休館等で学校が博物館へ來れない場合は、出前授業を検討する。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土博物館運営事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	14843	一般	10	4	4	市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	S58年度～年度		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
			根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例		実施方法		直営		
							事業分類		施設維持管理事業(市主体)	
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
博物館を運営していくための事業で、入館者の受付、団体見学者の案内、収蔵資料の閲覧や文献資料複写の支援、入館者及び図録等売払代金の徴収、広報誌等へのPR、交流諸施設から送付される刊行物(寄贈図書)の整理、寄贈資料の受入れ等		<ul style="list-style-type: none"> ・田中正造パンフレットゆかりの地マップの作成 ・資料閲覧・撮影・複写等のサービス ・寄贈図書の整理 ・寄贈資料の受入れ 						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		資料閲覧・撮影・複写	件	50	38	31		
		広報紙等掲載回数	回	12	12	12		
		図書整理冊数	冊	15,486	15,757	15,868		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

入館者 市民 図書	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	入館者数	人	22,362	20,387	16,314		
	市民人口	人	120,018	119,348	117,706		
	収蔵図書数	部	15,486	15,757	15,868		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的	① 見学者の利便を図り、利用者の研究を支援する。 ② 博物館相互の連携による研究資料の蓄積を図る。	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		資料閲覧・撮影・複写/入館者数	%	0.2	0.2	0.2		
		広報紙掲載回数	回	12	12	12		
		図書整理冊数/収蔵図書数	%	100	100	100		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	173	662	534					
	一般財源	千円	717	265	334					
	事業費計(A)	千円	890	927	868	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	10	報償物資費	17	報償金	130		
			報償物資費	56	消耗品費	33	報償物資費	16		
			消耗品費	52	印刷製本費	108	印刷製本費	0		
			印刷製本費	162	通信運搬費	120	消耗品費	43		
			通信運搬費	131	業務委託料	500	通信運搬費	118		
			業務委託料	150	機械等借上料	149	業務委託料	414		
			機械等借上料	279	庁用器具費	0	機械等借上料	141		
庁用器具費	50			庁用器具費	6					
人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4					
	のべ業務時間	時間	1,440	1,440	1,440					
	人件費計(B)	千円	5,495	5,502	5,494	0	0			
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,385	6,429	6,362	0	0			

事務事業名	郷土博物館運営事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-----------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年11月の郷土博物館の開館と同時に始まる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国や地方公共団体の財政の悪化等により、博物館等の弱体化が進んでいる。また、公立博物館において指定管理者制度が導入されるなど、博物館の運営形態が多様化している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持のより対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 市民や利用者の利便を図り、博物館・研究機関との連携を図ることは、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上(博物館法が目指す目的)や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 郷土の考古・歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・調査・研究及び展示して、教育的配慮のもとに市民一般の利用に供することは、当然市が行うべき事業と考える。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 市民や利用者の利便を図り、博物館・研究機関との連携を図ることは、博物館の学術・調査活動を支え、市民の学術・文化水準の向上や博物館資料の蓄積につながる。対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 収蔵資料の検索が館内に設置されたパソコンで出来るようになり、収蔵資料の管理・閲覧システムが改善され、利用者に資料の提供が迅速に行えるようになった。今後も、寄贈資料などの新規収蔵資料のデータを順次追加していく必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	類似事務事業名 理由・改善案
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 博物館を運営していく上で、必要最小限の事業費であり、削減余地はない。また、職員の数が少ない中で、平常業務の他に、教育・研究機関や個人研究者からの資料照会や閲覧要求等で、資料の検索や指導・助言に費やす時間も多く、人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 教育・研究機関や個人研究者からの博物館資料等の複写依頼などがあった場合に、必要な対価を求めることは妥当であるとする。負担額も紙代やコピー代など必要最低限の金額であり、適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	博物館が開館している間は、事業の休止・廃止は出来ない。博物館が閉館となった時に、事業は終了する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土博物館講座等開設事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	14850	一般	10	4	4	市単独事業・国県補助事業 市単独事業 任意的事業・義務的事業 任意的事業 実施方法 直営 事業分類 講座・教室・イベント等開催事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例				
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
生涯学習の場として、子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある各種講座を開催する。受講者は、広報誌等を通じて募集する。また、実技を伴う講座や講話を聴講して学習する講座などバラエティに富んだ博物館にふさわしい講座を開催する。 (講座の計画立案→講師の選定・依頼→受講者の募集→講座準備→講座の開催)	6講座開設 ・田中正造に学ぶ・古文書入門講座・まがたまを作ろう・昆虫標本を作ろう・民話を楽しもう ・田中正造に学ぶ 台風19号の影響で4講座中止					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
講座開催数	回	10	11	6		
受講者数	人	267	289	172		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市民 受講者	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	市民人口	人	120,018	119,348	117,706		
	受講者数	人	267	289	172		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

参加・体験型講座を通じて、郷土の考古・歴史・民俗等に対する理解と関心を高めてもらう。	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	受講者/市民人口	%	0.2	0.2	0.1		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	50	33	20			
	一般財源	千円	143	55	38			
	事業費計(A)	千円	193	88	58	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	168	報償金	88	報償金	50
			消耗品費	22	消耗品費	0	消耗品費	8
傷害保険料			3	傷害保険料	0	傷害保険料	0	
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2			
	のべ業務時間	時間	200	200	200			
	人件費計(B)	千円	763	764	763	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	956	852	821	0	0	

事務事業名	郷土博物館講座等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、生涯学習の場として子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある博物館活動を展開していくために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	生涯学習意欲の高揚に伴い、体験学習型講座が求められている。また、高齢化社会を迎え、生涯学習の必要性が益々増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	人気のある講座は受講の申し込みが殺到してすぐ定員を超えてしまうため、なかなか受講することができない。そのため、講座の回数を増やして欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	郷土の考古・歴史・民俗等について、講座を通して地域の歴史・文化にふれる機会を与えることは、教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としている佐野市立博物館条例の趣旨に従うものであり、合致している。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治体の役割である。講座等への参加機会を安価に提供することは、公共の施設でなければ難しい。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	実態に即しており妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	これまで、「郷土史入門講座」や「田中正造に学ぶ」など博物館講座として既に定着しているものの他に、新しい講座を開設したり、バラエティに富んだ講師の選任に努める。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
	*類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	講座の見直しを行っており、これ以上の削減の余地はない。また、愛好会会員(ボランティア)の協力を得ながら、必要最小限の人数で効率的に事業を行っている。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	講座を開催する際、実技を伴うものには材料費などの経費がかかる場合もあるので、受講者から応分の負担を徴収している。受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
	本事業は、博物館の主要な事業であるため、休止も廃止も出来ない。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									
これまで、博物館にふさわしい講座を実施してきたが、今後も新規の講座を開設するなどして、市民に広く学習の場を提供していく必要がある。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土博物館協議会運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり					担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14844	一般	10	4	4	郷土博物館協議会運営事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例					
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
						任意的事業・義務的事業		任意的事業			
						実施方法		直営			
						事業分類		審議会・協議会等運営事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
郷土博物館の諮問機関として設置した協議会を開催して、市民各層の代表から、博物館運営に関して意見や要望を聞くことにより、利用者の視点に立った施設の運営や事業の展開を行う。協議会を年2回開催する。		○博物館協議会 (第1回)令和元年10月31日開催予定……台風のため中止 (第2回)令和2年 3月18日開催予定……新型コロナウイルスの影響で中止						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		会議開催回数	回	2	2	0		
		視察研修回数	回	0	0	0		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

郷土博物館協議会 郷土博物館協議会委員		対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		郷土博物館協議会委員数	人	10	10	10		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

① 事業が円滑で効果的に実施できるように、郷土博物館の運営に関して委員から貴重な意見や助言を聴く。 ② 委員に他館を視察研修する機会を提供し、博物館運営に反映する。		成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		意見・助言数	件	10	20	0		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。		上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
		企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
		博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,407	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	107	76	0			
	事業費計(A)	千円	107	76	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			委員報酬	107	委員報酬	76	委員報酬	0
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4		
のべ業務時間		時間	120	120	120			
人件費計(B)		千円	458	459	458	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	565	535	458	0	0	

事務事業名	郷土博物館協議会運営事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	--------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、博物館の運営や事業に関する諮問機関として、博物館協議会を設置した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	税金で運営される国公立博物館は、納税者による監視を受け、納税者への説明責任を果たすため、利用者や市民が加わる運営参画会議が不可欠なものとなる。また、人数の制限はあるものの、会議が一般市民に公開され、協議会を傍聴できるようになった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている		理由・改善案	協議会委員から郷土博物館の運営・事業に関する意見を聴いて、館の運営やサービス向上に反映しているので、郷土の歴史・文化に関する事業の充実が図れる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない		理由・改善案	学校教育の関係者や社会教育関係団体の代表者として、母集団と意識を共有する委員の意見を聞くことは、館運営やサービス向上には必要不可欠である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である		理由・改善案	郷土博物館が博学連携や生涯学習の事業を進める上で、学校教育の関係者や社会教育関係団体の代表者から意見・助言を聴くことができるので、見直す必要はない。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない		理由・改善案	年2回の会議は最低限必要なものであると思われるが、事業全体を見直すなかで視察研修は平成29年度より廃止したので、これ以上の削減余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない		理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない		理由・改善案	年2回の会議は最低限必要なものであると思われるが、事業全体を見直すなかで視察研修は平成29年度より廃止したので、これ以上の削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない		理由・改善案	事業内容が博物館運営に関し意見も求めるものであるため、受益者負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 博物館が開館している間は、博物館協議会は必要である。博物館が閉館となったときに事業は終了する。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		郷土博物館企画展等開設事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	14848	一般	10	4	4	市単独事業・国県補助事業 任意的事業・義務的事業 実施方法 事業分類				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S58年度～年度		根拠法令等	市単独事業 任意的事業 実施方法 事業分類				
					博物館法 佐野市立博物館条例	リーディングプロジェクト 市長マニフェスト				

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
佐野市の考古・歴史・民俗等に関する特定のテーマを設け、期間を区切って借用資料等による企画展示を行うとともに、記念講演会等を開催する。	・第69回企画展「須永文庫資料展一日韓の近代」(4/27～6-16、2,272名) ・第69回企画展記念講演会「須永文庫における朝鮮絵画について」(5/12、36名) ・栃木県立博物館地域移動博物館「みんなおいでよ！昆虫ワールド」(7/20～9/1、3,563名)、 ・移動講座(8/3、20名) ・第70回企画展「中根東里展」(10/5～10/20、397名)(途中中止) ・第70回企画展記念講演会「中根東里と芳子と佐野と」(11/16)(中止) ・収蔵資料展「くらしのうつりかわり～古い道具と昔のくらし～」(1/4～2/24、4,855人)						
	活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	企画展等開催延べ回数	回	6	9	5		
	企画展等入館者数	人	14,931	14,651	11,143		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか？)

市民及び市外からの入館者	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	市民人口	人	120,018	119,348	117,706		
	企画展等入館者数	人	14,931	14,651	11,143		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？)

郷土の考古・歴史・民俗等について、展示を通して理解してもらう機会を作る。	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展等入館者数/市民人口	%	12.4	12.3	9.5		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか？)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円	570	399	312			
	一般財源	千円	1,120	904	983			
	事業費計(A)	千円	1,690	1,303	1,295	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償金	50	報償金	30	報償金	80
			報償物資費	24	報償物資費	24	報償物資費	10
消耗品費			76	消耗品費	60	消耗品費	61	
印刷製本費			1,033	印刷製本費	709	印刷製本費	739	
役務費			172	役務費	171	役務費	169	
作成委託料			335	作成委託料	309	作成委託料	236	
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2			
	のべ業務時間	時間	480	480	480			
	人件費計(B)	千円	1,832	1,834	1,831	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,522	3,137	3,126	0	0	

事務事業名	郷土博物館企画展等開設事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、広く愛郷心の育成に資するために開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	近年、生涯学習への関心が高まり、市民の参加型生涯学習意欲の高揚が見られるが、緊縮財政の中で経費の削減等が求められている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	様々な種類の企画展に取り組んだ。特に台風のために途中で中止になった「中根東里展」は塩村教授に指導をいただきながら、企画展の準備を進めた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	理由・改善案	郷土の考古・歴史・民俗等について、展示を通して地域の歴史・文化にふれる機会を与えることは、市民になどに地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への誇りと愛着心を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	理由・改善案	市民の文化活動を支援し、文化水準を向上させるのは、地方自治の役割である。多くの人々に見学の機会を安価に提供し、郷土に誇りと愛着心を持つ人々を育成することは、市の責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	理由・改善案	この事業は、博物館の主要な事業であり、市民文化の向上発展に寄与するものであるとともに、企画展等により佐野市の貴重な収蔵資料等を展示・公開して後世に伝え、地域に誇りと愛着心を持つ人々を育成することは、博物館の重要な役割である。対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	理由・改善案	入館者数は、企画展のテーマ(内容)により増減するので、博物館資料等の調査・研究の成果発表の場である企画展のテーマを精選して、館独自のもの・特色のあるものを取り上げたり、利用者の興味・関心の高い企画展を開催したりすることで、入館者数を増やすことが可能である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	理由・改善案	現状では、他からの借用をほとんどしない最低限の予算で企画展を開催し、図録を作成している。これ以上の削減は困難である。
	削減の余地はない		
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	理由・改善案	企画展を開催する際には、周知するためのポスター・リーフレット作成やサイン作成など、印刷製本費や作成委託料の経費が多くなる。見学する際に、応分の負担(入館料を徴収)をしてもらうことは、適正なものと考えられる。
	現在の受益者負担は適正である		
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	企画展を廃止・休止すると常設展示室のみの展示となり、入館者の大幅な減少が予想される。この事業は、博物館の主要な事業であるため、休止・廃止できない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																								
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)																									
令和元年度は、台風等の影響で入館者が減少したが、今後も博物館は特定の時代やテーマに偏ることなく様々な時代の企画展を研究のうえで行う必要があるため、市民ニーズの把握に努めながら企画展の内容を検討する必要がある。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持			×																					
	低下		×	×																					

事務事業名		郷土資料保存三好館維持管理事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				
	14856	一般	10	4	4	郷土資料保存三好館維持管理事業				
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H16年度～ 年度		根拠法令等	博物館法 佐野市立博物館条例				
					事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		直営		
						事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)						
郷土資料保存三好館の施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供する。 施設・設備の維持管理に係る消耗品購入、施設の修繕、除草・植栽剪定、消防設備・し尿浄化槽等の保守点検委託等		<ul style="list-style-type: none"> 施設の維持管理に係る消耗品の購入、光熱水費の支払 火災保険に加入 消防設備、し尿浄化槽の保守点検業務の委託(年間) 植栽剪定 						
		活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
		管理・保守点検件数	件	2	3	2		
		修繕件数	件	1	3	0		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

入館者 施設・設備 収蔵資料	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	入館者数	人	76	74	63		
	修繕必要箇所	箇所	1	3	0		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

入館者 施設・設備 収蔵資料	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	良好に保存された展示品の割合	%	100	100	100		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

市民や児童生徒が歴史・文化資源について学び理解する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	企画展開催・記念講演会・図録及び要覧等PR図書刊行件数	件	17	19	15		
	博物館、化石館、伝承館の入館者数	人	51,401	52,391	39,845		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	208		303		196					
	事業費計(A)	千円	208		303		196		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	9	消耗品費	0	消耗品費	1				
			燃料費	0	燃料費	0	燃料費	0				
			光熱水費	57	光熱水費	57	光熱水費	60				
			修繕料	10	修繕料	65	修繕料	0				
火災保険料			16	火災保険料	17	火災保険料	17					
管理委託料			76	管理委託料	124	管理委託料	78					
保守委託料	40	保守委託料	40	保守委託料	40							
人件費	正規職員従事人数	人	2		2							
	のべ業務時間	時間	120		120							
	人件費計(B)	千円	458		459		0		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	666		762		196		0		0	

事務事業名	郷土資料保存三好館維持管理事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	-----------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年郷土博物館の開館に伴い、生涯学習の場として子どもから大人まで利用してもらえるような魅力ある博物館活動を展開していくために開始した。
	生涯学習意欲の高揚に伴い、体験学習型講座が求められている。また、高齢化社会を迎え、生涯学習の必要性が益々増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	人気のある講座は受講の申し込みが殺到してすぐ定員を超えてしまうため、なかなか受講することができない。そのため、講座の回数を増やして欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	施設や設備を整備して、利用者に良好な環境を提供し、郷土の歴史に触れる機会を与えることは、市民の学術・文化水準の向上や郷土への愛着を育むことにつながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	三好館を管理運営することは、教育普及の支援施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割も持ち、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)に適うため。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	施設や設備を整備して、展示・収蔵資料の最適環境を保ち、利用者に良好な環境を提供することがこの事業の目的であり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	三好館の常設展示は、旧田沼町立三好小学校の校舎を移転・整備し、町内から収集した郷土資料を保存・展示したものであるため、展示・公開方法などに向上余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	三好館を維持管理するための最低限の必要経費であり、事業費の削減余地はない。また、人件費も同様である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	博物館法では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持管理のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。」と規定されている。三好館は常設展のみのため、受益者負担はそぐわない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			三好館が開館している間は、施設の維持管理は必要であり、その存在意義がなくなり閉館となった時に、事業は終了する。

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			

事務事業名		郷土資料保存三好館運営事業				評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり				担当組織	担当部	教育総務部	担当課	文化財課
	政策	3 歴史・文化を守り育てるまちづくり				担当係	郷土博物館	担当課長名	山口明良	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と保存				新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 歴史・文化資源の理解の促進と地域づくりの推進				実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	事業区分				
	14857	一般	10	4	4	市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	H16年度～ 年度		任意的事業・義務的事業		任意的事業		
			根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例		実施方法		直営		
							事業分類		施設維持管理事業(市以外が主体)	
						リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和元年度実績(令和元年度に行った主な活動内容)					
指定文化財である郷土資料保存三好館を活用し、地域の協力を得て、展示見学の利便を図る。受付や展示見学の案内等の開館業務を三好地区町会長に委託し、地元住民(ボランティア)が交替で管理を行う。		<ul style="list-style-type: none"> 管理運営業務を三好地区町会長に委託 戸室・船越・岩崎地区のボランティア12人が交代で開館業務を行う。 定時開館：毎月第2・第4日曜日(3月の開館は、新型コロナウイルスの影響で中止) 					
活動指標		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
開館日数		日	24	24	22		
ボランティアの延活動者数		人	48	48	44		

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

① 入館者 ② 地元自治会(ボランティア)	対象指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(見込)	R3年度(見込)
	入館者	人	75	74	63		
	ボランティアの延活動者数	人	48	48	44		

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

目的 地元自治会との協働により、三好館の管理運営を行い、見学者の利便を図る。	成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	入館者/見学希望者	%	100	100	100		
	開館日数/定時開催日数	%	100	100	92		

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

歴史・文化資源を継承し、郷土を育む人材を養成する。	上位成果指標	単位	29年度(実績)	30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(目標)	R3年度(目標)
	歴史・文化資源に関するボランティア養成や活動等の件数	人	463	453	284		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(目標)		R3年度(目標)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		187	191	176						
	事業費計(A)	千円		187	191	176	0	0				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			管理委託料	187	管理委託料	191	管理委託料	176				
人件費	正規職員従事人数	人	2		2		2					
	のべ業務時間	時間	240		240		240					
	人件費計(B)	千円	916		917		916		0		0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	1,103		1,108		1,092		0		0	

事務事業名	郷土資料保存三好館運営事業	担当部	教育総務部	担当課	文化財課	担当係	郷土博物館
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼町が設置した郷土資料保存三好館を、平成17年の合併時に引継ぎ、郷土博物館の別館として位置づけたことに始まる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	合併時と比べて、管理運営を委託している地元自治会のボランティアの確保が難しくなっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	特になし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	三好館は、郷土の歴史、民俗等に関する資料を保護活用し、郷土意識の高揚及び文化の振興を図ることを目的として開設されたものであるため、政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	三好館を管理運営することは、教育普及の支援施設として、地域の学術・文化水準を押し上げる役割を持ち、住民福祉の向上(地方自治法の掲げる目的)に適うものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	意図を見直す必要がある	理由・改善案	三好館は、旧三好小学校の校舎を移転・整備したもので、明治期の学校建築・施設を知る上で大変貴重な建造物である。その貴重な歴史的文化的遺産を地域との協働により保護活用していくことは、意味のあることであるが、三好小学校が平成30年度で閉校になるため、公開方法等検討する必要がある。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	三好館の常設展示は、その設立目的から固定的なものであり、展示・公開方法などに向上余地は少ない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	現在の委託金額は法で定める最低賃金程度であり、削減することはできない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	博物館法では、「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持管理のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。」と規定されている。三好館は常設展のみのため、受益者負担はそぐわない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	市指定建造物であり非公開にすることはできない。しかし、現在、三好地区町会長に委託して管理運営をしているが、今後の公開方法等は検討する必要がある。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 三好小学校が閉校になり、入館者が減少すると考えられるため、令和2年度までは月2回開館とするが、翌年度以降は公開方法を検討する必要がある。	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>○</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下	○	×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持			×																					
	低下	○	×	×																					